

定期試験時間の変更及び総合科目の新設・変更について

平成 28 年度より、定期試験時間の変更となります。また新設される総合科目、開講時期または単位数が変更となる総合科目があります。詳細は下記のとおりです。

記

1. 定期試験（本試験）時間

平成 28 年度 S1 ターム開講科目の定期試験（本試験）より、試験時間が各時限とも 10 分繰下げとなります。

時限	平成 28 年度以降 定期試験（本試験）時間 ※試験時間 90 分の場合	（参考 1）平成 27 年度 定期試験（本試験）時間 ※試験時間 90 分の場合	（参考 2）授業時間
1 時限	8 時 40 分 ～ 10 時 10 分	8 時 30 分 ～ 10 時 00 分	8 時 30 分 ～ 10 時 15 分
2 時限	10 時 35 分 ～ 12 時 05 分	10 時 25 分 ～ 11 時 55 分	10 時 25 分 ～ 12 時 10 分
3 時限	13 時 10 分 ～ 14 時 40 分	13 時 00 分 ～ 14 時 30 分	13 時 00 分 ～ 14 時 45 分
4 時限	15 時 05 分 ～ 16 時 35 分	14 時 55 分 ～ 16 時 25 分	14 時 55 分 ～ 16 時 40 分
5 時限	17 時 00 分 ～ 18 時 30 分	16 時 50 分 ～ 18 時 20 分	16 時 50 分 ～ 18 時 35 分
6 時限	18 時 55 分 ～ 20 時 25 分	18 時 45 分 ～ 20 時 15 分	18 時 45 分 ～ 20 時 30 分

繰り上げ試験の試験時間は、授業担当教員から特に指示がない限り、授業時間と同じです。

平成 27 年度 A セメスター開講科目の追試験（4 月 25 日～27 日実施）は平成 27 年度の試験時間で実施しますので、注意してください。

（次ページに続く）

2. 総合科目の新設及び開講時期・単位数の変更

総合科目について、2科目が新設されるとともに、開講予定セメスター・タームまたは単位数が変更される科目があります。詳細は下表のとおりです。(下線部が変更点)

区分	系列	大科目名	科目名	科目の授業内容	開講予定 セメスター・ターム	単位数
変更	C	法と社会	日本国憲法	(変更なし・省略)	<u>S/S1/S2</u> 及び <u>A/A1/A2</u>	2
変更	D	環境・資源 農学	放射線環境科学	(変更なし・省略)	<u>A</u>	2
新設	E	物質科学	<u>分子化学概論</u> (注1)	<u>多様な最先端化学研究の礎となる基礎概念や新しい技術を学ぶ。</u>	<u>S</u>	<u>2</u>
変更	E	生命科学	分子生命科学	(変更なし・省略)	<u>A</u>	<u>2</u>
新設	E	生命科学	<u>現代生物学</u> (注1)	<u>現代生物学では生命の基本原則とその多様性の解明を目的として、分子からオルガネラ、細胞、組織、器官、個体、集団に至るさまざまなレベルで、多様な生命現象を対象とした研究がなされている。今まさに進展しつつある最先端の生物学について、その基礎を学ぶ。</u>	<u>S</u>	<u>2</u>
変更	E	生命科学	人類科学	(変更なし・省略)	<u>S</u>	<u>2</u>
変更	E	生命科学	生物情報科学	(変更なし・省略)	<u>S</u>	<u>2</u>
変更	E	生命農学	<u>応用動物科学Ⅰ</u>	<u>哺乳動物が持つ複雑で雑多な生命現象、新たなバイオテクノロジーについて最新の情報を含め、オムニバス形式で解説する。主な授業内容は、生物学、発生工学など動物の遺伝子操作、ペットの問題行動など動物の行動学、その他、生殖生物学、細胞生物学にわたる広範な話題が提供される。</u>	<u>S</u>	<u>2</u>
変更	E	生命農学	<u>応用動物科学Ⅱ</u>	<u>哺乳動物は種によって体の形態や構造、生理機能、また生態や習性等は異なる(種差)。種差は健康な状態だけではなく、病的な状態においても認められる。多様な種差について比較生物学の立場から考察する。</u>	<u>A</u>	<u>2</u>

(注1) 平成26年度以前入学者も履修可能であり、履修した場合は「物質・生命一般」として扱う。

以上